

鬼

岩佐なを

セウワバウバウナリ
むかしむかし
とある団地に徳利型の
給水塔がたっていた
酒ではなく飲料水を注いで
いたのだったか子供たちはなにも
気にせず塔下の空き地で
缶けりや隠れんぼをしていた
鬼は子を見つけると
その子の名を呼び連れていった
連れていかれた子は
遊びから消えたやがて
この世からも消えた
塔下には桃の花が咲き
小さな焼却炉の煙突からは細い
のろしに似たけむりがあがり
それを鬼は焼場のけむりと言った
鬼も子だった
子供たちはあつという間にバラバラ
たった百年もかからずに
老体になってよろけ
缶もけられず
焼却炉へ入り込む側にまわった
たった百年かからずとも
気まぐれに郷里をよろよろ訪ねると
塔も桃も炉もなかった
鬼は鬼籍へ
子らはほとんど既にのろしに使われ

めいめい墓場で

隠れんぼ

鬼は来るかな来ないかな

ワウジバウバウ